

③ 浦川原区

■人口（令和元年10月末現在）

総人口	3,268人	2.5%
15歳未満	355人	0.3%
65歳以上	545人	0.4%
75歳以上	679人	0.5%

■地域の送迎サービス

No.	名称	運行主体	区 間	運行日
1	スクールバス	市	浦川原小学校区	平日
2	浦川原診療所	浦川原診療所	浦川原区内	平日の午前
3	保倉の里診療所	保倉の里診療所	浦川原区内	平日の午前
4	サロン送迎	夢あふれるまち浦川原	月影地区、末広地区、下保倉地区	週2回（月・水）

■バス路線の収支と評価結果

No.	路線	区分	収支等の状況（H30決算）								評価結果	
			経常費用 （千円）	経常収益 （千円）	経常欠損 （千円）	収支率	国県補助 （千円）	市補助 （千円）	年間利用者数 （人）	1便当たり利用者数 （人）		平均乗車密度
1	直江津・浦川原線	幹線	37,800	11,627	26,173	30.8%	7,664	17,067	81,753	13.5	1.0-2.1	IV現状維持
2	大平線	支線	5,375	986	4,389	18.4%	1,960	2,427	9,243	3.8	0.5-0.6	II運行形態の転換等
3	月影・下保倉・末広ルート	支線	5,290	860	4,430	16.3%	1,102	3,327	4,955	1.6	-	II運行形態の転換等
4	上柿野ルート	支線	108	18	90	16.6%	46	44	91	0.9	-	I路線廃止
5	小麦平ルート	支線	113	23	90	20.2%	42	47	78	0.8	-	
6	東西ルート	支線	1,528	53	1,476	3.5%	0	1,475	401	0.4	-	
合 計			50,215	13,567	36,648	27.0%	10,814	24,387	96,521	7.6	-	

■利用の実態（乗降調査）

No.	路線	利用の実態	
		利用の傾向 （乗降調査）	利用の特徴 （乗降調査）
1	直江津・浦川原線	A-イ	・朝夕は通勤・通学利用が主、昼間は高齢者が通院に利用
2	大平線	A-ア	・朝夕は通学利用が主 ・昼間はほとんど利用なし
3	月影・下保倉・末広ルート	C-ア	・朝夕は通学利用が主 ・昼間は利用が少ない
4	上柿野ルート	C-ア	・上岡入口と上岡集会所からの通院利用のみ
5	小麦平ルート	C-イ	・通院等で利用がある ・11時台の便の利用なし
6	東西ルート	C-ア	・ほとんど利用なし

■沿線住民の意見

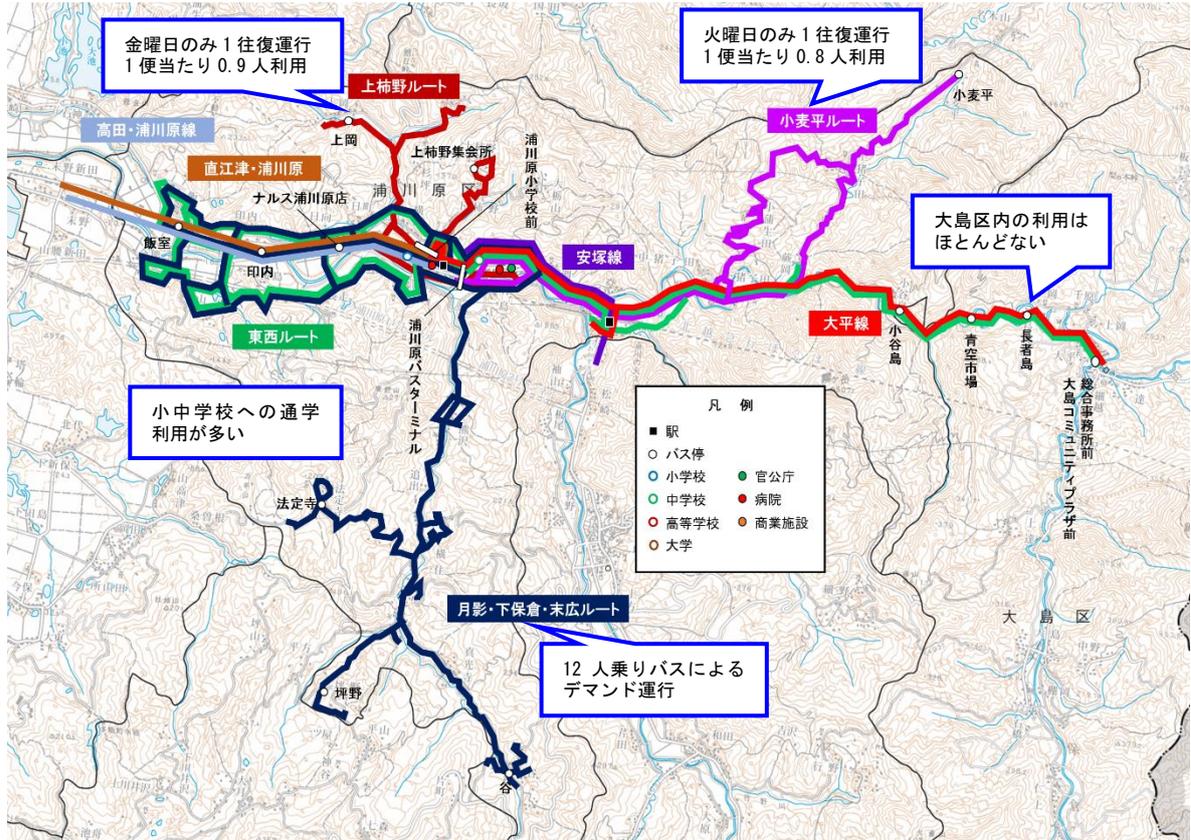
No.	路線	地域住民の意見	
		利用者の意見 （乗降調査）	住民の意見 （聞き取り調査、説明会等）
1	直江津・浦川原線	意見なし(0人/37人)	・保倉川橋発着の便の待機所が飯室停留所なので、飯室発着にした方が便利(1人)
2	大平線	意見なし(0人/1人)	-
3	月影・下保倉・末広ルート	意見なし(0人/10人)	・ドアツードアを要望(3人) ・冬期間、下校に利用できる18時台の便がほしい(4人)
4	上柿野ルート	路線の継続(1人/5人)	・現状維持を希望(6人)
5	小麦平ルート	意見なし(0人/3人)	・ナルス浦川原店までの延伸(普段は車で移動)(1人)
6	東西ルート	意見なし(0人/2人)	・意見なし

■再編の方向性

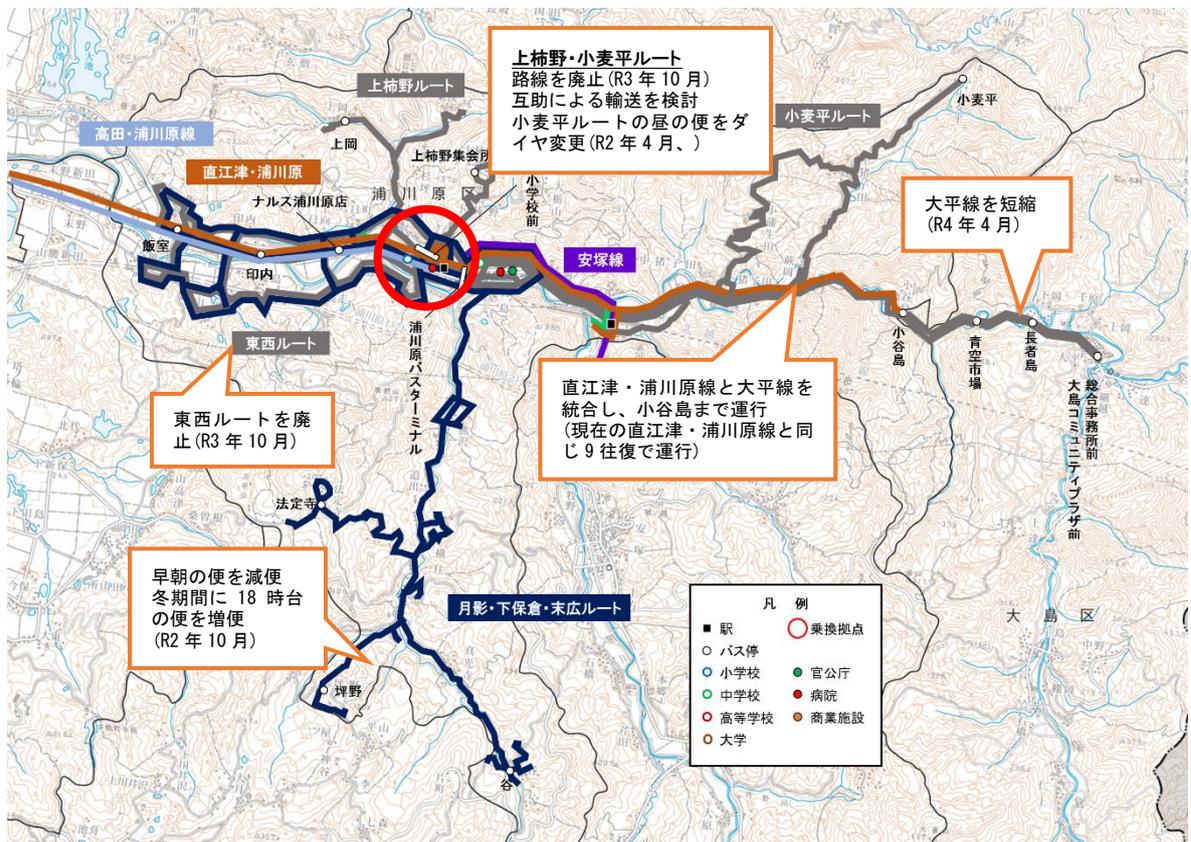
No.	路線名	区分	主な再編時期	再編の方向性
1	直江津・浦川原線	幹線	R4年4月	・大平線の一部区間（浦川原バスターミナル～小谷島）と統合し、小中学生が登下校に利用する朝夕の便のみ、小谷島まで延伸 ・保倉川橋発着の便を浦川原バスターミナル発着に変更 ・保倉地区において、国道の旧道を運行する実証実験を行い、経路変更を検討(R2年合併前上越市)
2	大平線	支線	R4年4月	・大島区内の利用がないため、直江津・浦川原線と統合
3	月影・下保倉・末広ルート	支線	R2年10月	・利用がほとんどない早朝の便を減便 ・冬期間のみ中学生の利用が見込まれる18時台の便を増便
4	上柿野ルート	支線	R3年10月	・路線を廃止し、住民の「互助」による輸送への転換を検討
5	小麦平ルート	支線	R3年10月	・路線を廃止し、住民の「互助」による輸送への転換を検討 ・廃止前の猶予期間において、ダイヤを改善
6	東西ルート	支線	R3年10月	・路線を廃止

※幹線と支線の乗換拠点は浦川原バスターミナル

■再編前



■再編後



④ 大島区

■人口（令和元年10月末現在）

総人口	1,458人	1.1%
15歳未満	88人	0.1%
65歳以上	281人	0.2%
75歳以上	497人	0.4%

■地域の送迎サービス

No.	名称	運行主体	区 間	運行日
1	サロン送迎	大島まちづくり振興会	菖蒲地区、大島地区、保倉地区、旭地区	平日：年36回 1日：年12回
2	出張サロン送迎	大島まちづくり振興会	下岡町内会、長者島町内会、旭地区、菖蒲地区	月1回
3	介護予防教室	大島まちづくり振興会	菖蒲地区、大島地区、保倉地区、旭地区	水曜日
4	家族すこやか・ほっとカフェ	大島まちづくり振興会	菖蒲地区、大島地区、保倉地区、旭地区	年3回(金)

■バス路線の収支と評価結果

No.	路線	区分	収支等の状況(H30決算)								評価結果	
			経常費用(千円)	経常収益(千円)	経常欠損(千円)	収支率	国県補助(千円)	市補助(千円)	年間利用者数(人)	1便当たり利用者数(人)		平均乗車密度
1	大平線	支線	5,375	986	4,389	18.4%	1,960	2,427	9,243	3.8	0.5 0.6	Ⅱ 運行形態の転換等
2	東西ルート	支線	1,528	53	1,476	3.5%	0	1,475	401	0.4	-	I 路線廃止
3	旭線	支線	14,731	448	14,283	3.0%	0	14,283	2,150	0.8	-	Ⅱ 運行形態の転換等 (市営バス全体で1便当たり利用者数2.3人)
4	菖蒲線	支線							10,167	3.7		
合 計			21,634	1,487	20,147	6.9%	1,960	18,185	21,961	2.5	-	

■利用の実態（乗降調査）

No.	路線	利用の実態	
		利用の傾向(乗降調査)※	利用の特徴(乗降調査)
1	大平線	A-ア	・朝夕は通学利用が主 ・大島区内の利用なし
2	東西ルート	C-ア	・ほとんど利用なし ・大島区内の利用なし
3	旭線	A-ア	・朝夕は通学利用が主 ・朝の第1便や昼間の便は利用なし
4	菖蒲線	A・B-ア	・朝夕は通学利用が主 ・朝の第1便や昼間の便は利用なし ・利用がない区間あり

■沿線住民の意見

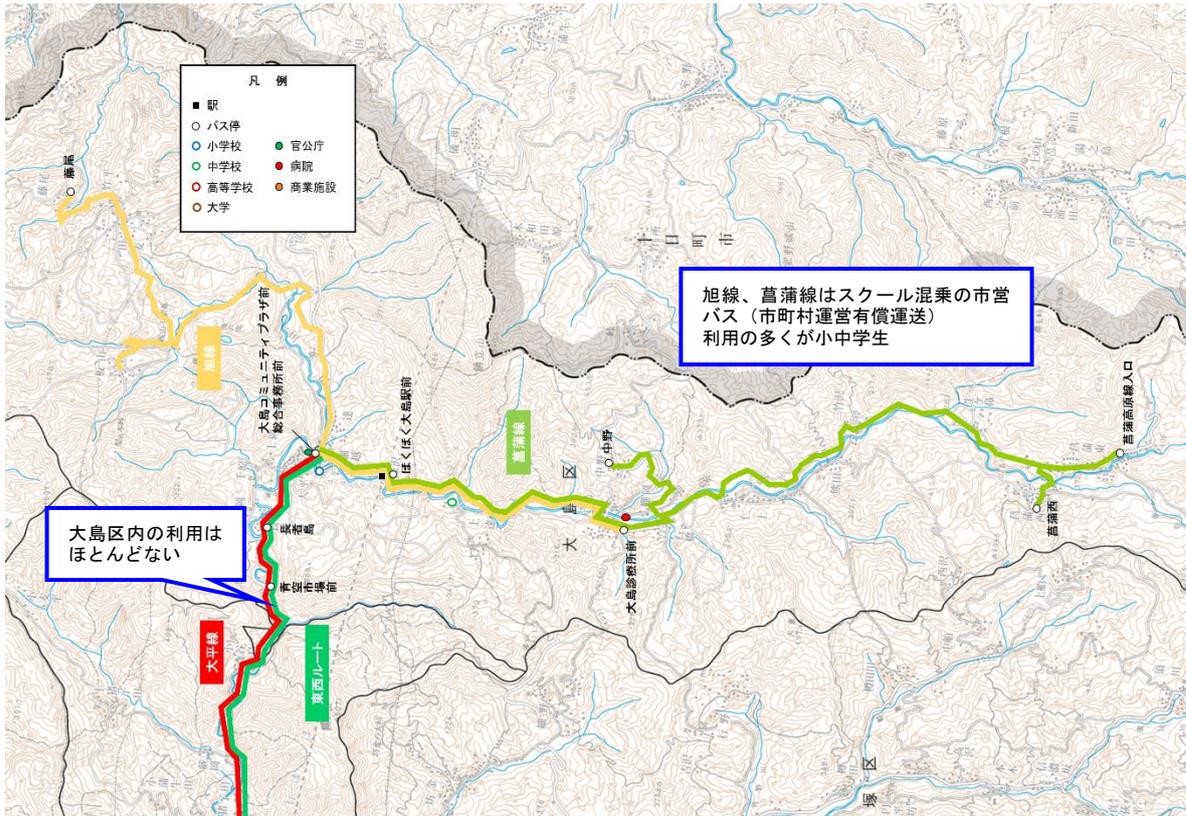
No.	路線	地域住民の意見	
		利用者の意見(乗降調査)	住民の意見(聞き取り調査、説明会等)
1	大平線	意見なし(0人/1人)	・直江津方面へは運賃の安い鉄道がよい。(1人)
2	東西ルート	意見なし(0人/2人)	・意見なし
3	旭線	鉄道との接続改善(1人/17人)	・大平から大島診療所へ行く際、待合環境がよいコミュニティプラザまで歩いてバスに乗っている。(2人) ・長者島の中学生の冬期間利用希望あり。(2人)
4	菖蒲線	意見なし(0人/90人)	・西沢までバスが来るようにしてほしい。(1人) ・上達の集落(坂の上)から上達停留所への移動が大変。(1人)

■再編の方向性

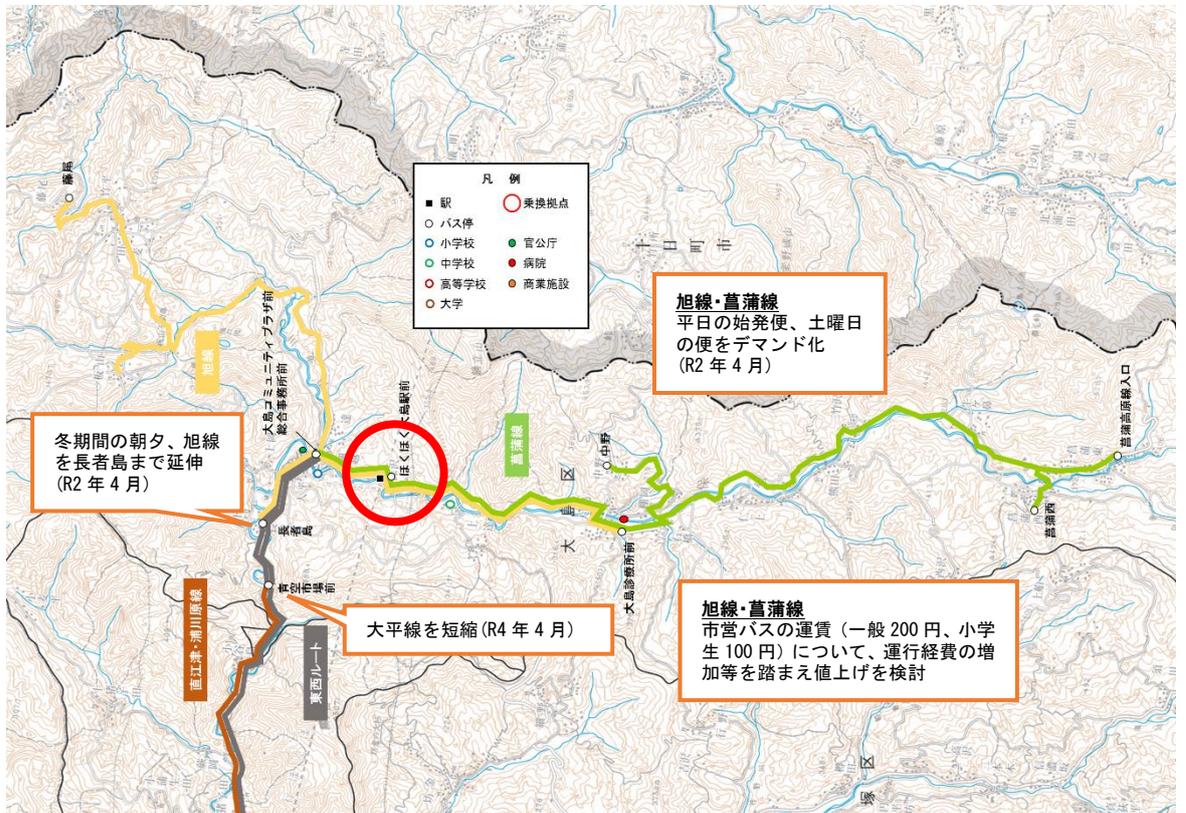
No.	路線名	区分	主な再編時期	再編の方向性
1	大平線	支線	R4年4月	・大島区内の利用がないため、直江津・浦川原線と統合
2	東西ルート	支線	R3年10月	・路線を廃止
3	旭線	支線	R2年4月	・冬期間の朝夕の便に限定し、長者島まで延伸 ・利用がほとんどない平日始発の便と土曜日の便をデマンド化
4	菖蒲線	支線	R2年4月	・利用がほとんどない平日始発の便と土曜日の便をデマンド化

※幹線と支線の乗換拠点はほくほく大島駅

■再編前



■再編後



⑤ 牧区

■人口（令和元年10月末現在）

総人口	1,777人	1.4%
15歳未満	115人	0.1%
65歳以上	378人	0.3%
75歳以上	548人	0.4%

■地域の送迎サービス

No.	名称	運行主体	区 間	運行日
1	地域支えあい事業の送迎	NPO法人牧振興会	コミプラ～牧区全域～コミプラ	週3回(火・水・金)

■バス路線の収支と評価結果

No.	路 線	区分	収支等の状況(H30決算)								評価結果		
			経常費用 (千円)	経常収益 (千円)	経常欠損 (千円)	収支率	国県補助 (千円)	市補助 (千円)	年間利用者数 (人)	1便当たり利用者数 (人)		平均乗車密度	
1	宮口線	幹線 支線	35,560	11,472	24,088	32.3%	7,660	16,427	45,978	幹線 6.3 支線 1.3	1.6 2.2	IV現状維持(幹線) II運行形態の転換等(支線)	
2	高谷線	支線						969	0.7	-	II運行形態の転換等 (市営バス全体で1便当たり利用者数1.8人)		
3	平山線	支線	13,684	294	13,390	2.1%	0	13,390	2,249	1.5			-
4	坪山線	支線						4,660	3.2	-			
合 計			49,244	11,766	37,478	23.9%	7,660	29,817	53,856	5.1	-		

■利用の実態（乗降調査）

No.	路 線	利用の実態	
		利用の傾向 (乗降調査)	利用の特徴 (乗降調査)
1	宮口線	B-イ	・朝夕は通学利用が主 ・昼間は中央病院及び周辺の個人医院への通院利用等 ・牧小学校前-深山荘の利用が少ない
2	市営バス	C-ア A・B-ア	・高谷線の利用はほとんどない ・平山線・坪山線は、朝夕は通学利用が主であり、昼間の利用はほとんどない。

■沿線住民の意見

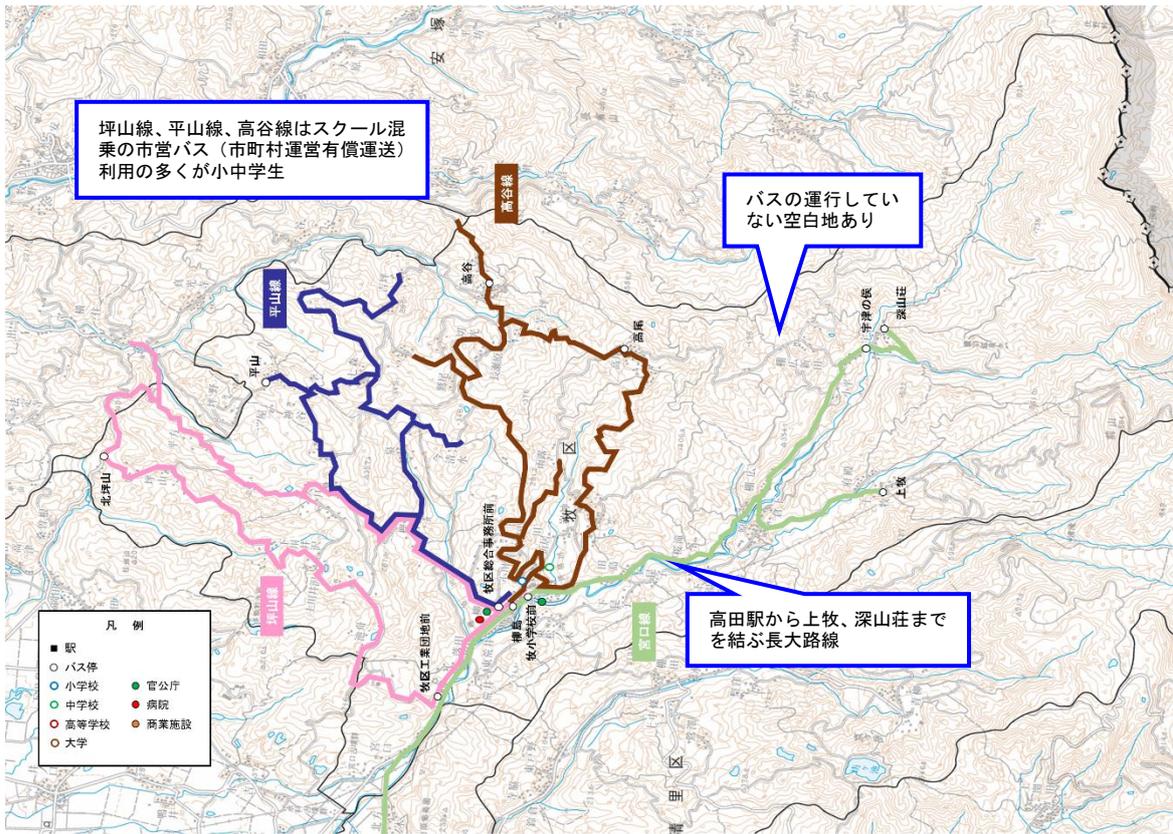
No.	路 線	地域住民の意見	
		利用者の意見 (乗降調査)	住民の意見 (聞き取り調査)
1	宮口線	・上り下りともに増便要望(5人/291人) ・県立中央病院周辺の個人医院付近の停留所新設要望(2人/291人)	・診療所から深山荘方面への増便(民生委員1人) ・県立中央病院周辺の個人医院付近に停留所を新設(1人) ・バス停が遠い、バスを運行してほしい。(7町内会)
2	市営バス	・意見なし(0人/59人)	・バス利用者への聞き取りから増便要望(56人中12人)

■再編の方向性

No.	路線名	区分	主な再編時期	再編の方向性
1	宮口線	幹線	R3年4月	・幹線と支線に分割し、高田駅-牧小学校間に短縮（乗換拠点は柳島とするが、牧小学校まで運行） ・利用の少ない時間帯等の減便、ダイヤ変更により、利便性と効率性を向上 ・県立中央病院周辺の個人医院付近に停留所の設置を検討(合併前上越市)
		支線	R3年4月	・深山荘-柳島間の支線区間は、市営バス(スクール混乗)に転換し、効率性を向上 ・棚広新田等の交通空白地に対応するルートの新設
2	市営バス	支線	R3年4月	・宮口線の支線区間を含め、車両3台での運行を維持し、効率的に運行 ・利用の少ないデマンド便は、高齢者が通院、買い物で利用するよう喚起

※幹線と支線の乗換拠点は柳島

■再編前



■再編後

